



# 清友

No. 11  
2010年6月

東京清掃労働組合退職者会  
〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4F  
TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

## 清掃退職者会 2010年度学習会

- 日時 6月25日(金)  
午後1時30分開催
- 場所 SKホール  
(清掃会館地下1階)  
千代田区飯田橋3-9-3  
03-3237-9995

- テーマ  
①高齢者をめぐる情勢と課題  
②自治退共済・保険事業
- 講師 佐藤征義氏  
自治退都本部会計  
労働行政退職者会会長

※学習会終了後、概ね3時頃から交流会をもちます。  
※6月19日までに「出欠」の連絡をお願いします。

## 第2回 幹事会

清掃退職者会学習会を6月25日開催、旅行会会計を廃止し退職者会の会計に一本化

5月24日、第2回幹事会を開催し、①清掃退職者会10年度学習会の企画、②旅行会会計の廃止と今後の運営などを確認しました。

### 学習会のテーマ

学習会は、別記のように6月25日に開催します。

学習会のテーマは、後期高齢者医療制度や年金、社会保障の制度設計の見直しなど、高齢者を取り巻く最近の状況を学ぶことと、自治体退職者会が進めている保険事業の説明です。また、学習会の後、交流会をもちますので、是非参加してください。

### 旅行会計を廃止

旅行会の会計を廃止し、退職者会会計へ一本化することになりました。

清掃退職者会旅行会「清友会」は、独立した会計を設置していましたが、現在、旅行会には自主財源がなく、旅行会の運営は、旅行参加者の会費と退職者会よりの補助金を原資にしていますので、独立した会計を設置しておく意味はなくなったと判断しました。旅行会の残金28,609円は、退職者会会計へ「雑収入」として繰り入れます。

### 会員拡大へ議論

幹事より、会員拡大へ向け、①各区・一組選出中央執行委員に取組みを強化してもらいたい、②会員拡大用に機関紙を複数郵送してほしいなどの意見が出されました。

本部・支部への要請を強めるとともに、会員自身の取組みの強化が求められます。また、会員になってよかったと思うような会の運営を行うことも必要だと思えます。

# 自治体退職者会関東甲・北信・東海地区学習会



5月20日・21日に、自治体退職者会関東甲・北信・東海地域学習会が開催されました。学習会は、①当面する特徴的情勢と自治体の課題（真柄自治退会長）、②社会保障の充実と財源（川端自治退事務局長）、③自治体保険事業の推進（金井自治退会計と東京海上日動火災担当者）、④「笑ってもっと元気に」（日本笑い学会講師・藤井敬三氏）と、盛り沢山でした。紙面の都合もありますので、「社会保障の充実と財源」と「笑ってもっと元気に」の講義内容概要を報告します。

## 社会保障の充実と財源 消費税の引上げは 避けられない?!



川端事務局長

### 1 どんな社会を選ぶのか

▼どうもうな「弱肉強食社会」は、小さな政府で、強い者のみがサービスを受受できるアメリカ型社会。小泉・竹中路線。  
▼「矯正された市場社会」は、ほどこい政府で、必要とする者が約束された範囲のサービスを受けられる「再分配社会」。分配するための負担が必要になる。

### 2 負担は応能か応益か

▼「弱肉強食社会」の負担方式は「応益」＝自己責任型。「再分配社会」の負担方式は「応能」＝能力に応じて負担。  
▼負担の柱は、税と公的保険料にある。

▼われわれが目指すのは、「再分配を前提にした」社会。

### 3 収支はどうなっている

▼税収は下がる一方、歳出は増える一方。平成21年度は公債発行額が税収を上回り、政府債務の対GDP比は200%に達し、昭和45年の敗戦年次を超えた。まさに戦時体制に等しい状況にある。

▼社会保障を抑制し経済成長による税収増により「おこぼれがいきわたる」という小泉・竹中改革の誤りは、事実が証明している。  
▼事業仕分けなどの歳出見直しは必要だが、限界がある。埋蔵金も安定財源ではない。  
▼国家財政の破綻を避けるため、負担のあり方が問われている。

### 4 歳出はどうなっている

▼平成22年度予算の総額は92・3兆円。社会保障費27・3兆、国債費20・6兆、地方交付税17・5兆、公共事業費5.8兆、文教科学費5.6兆、防衛費4.8兆、その他10兆。

▼社会保障の拡大は、格差緩和と将来不安解消により内需を拡大し、経済成長をもたらす。

### 5 社会保障にいくらかける

▼社会保障は「いくらかかるか」ではなく、「いくらかけるか」に発想を転換すべき。

▼社会保障に必要な財源は、「弱肉強食社会」では小さいが、市民が安心して暮らす「再分配社会」では、大きな財源が必要になる。

▼社会保障国民会議の試算では、社会保障機能強化の追加所要額は、5年後に8.3兆円、15年後は20兆円必要になるとしている。

▼社会保障の充実には大きな財源・公費が必要になる。その財源を用意することが重要。

### 6 財源調達・保険料と税

▼社会保障の財源は保険料と税の組合せ。

▼社会的責任による再分配は「税によるべき」という考え方は正しいが、税は財政当局や担税階層の考え方による変動要素が大きい。  
▼保険料は、安定財源。少なくとも現在保険料でまかなっているものを税に切り換えるのは間違い。

▼基礎年金の全額税方式化は、①企業負担の家計への転嫁、②掛金の二重取りなどの問題点がある。

## 7 所得税の現状と課題

▼平成21年度・15・6兆円  
▼小淵減税により、個人所得税率最高ランクは50%から37%に下がり、現在は40%。

▼税率を元に戻す（現行40%↓50%）べきだが、税率を上げても高所得者は少ないので、税収増につながらない。

※課税所得90万円以上（給与収入140万円以上・税率33%・40%）の層は納税者数の2.1%で、納税総額は4.8兆円

▼所得税を社会保障の主財源にしようとするれば、課税ベースが拡大し、中所得者層の課税強化になっ てしまう。

## 8 法人税の現状と課題

▼平成21年度・10・5兆円  
▼国税は30%、小淵減税前の37.5%に戻すと、2.6兆円の増収。

▼財界が主張する実効税率39.5%を30%に減税すると、3.5兆円の減収。

▼財界は、国際比較で日本の法人税は高いと主張している。最近、鳩山首相も「国際競争力を高めるため、法人税を下げる」と言っているが、国際比較では日本企業の社会保険料負担は低く、特に医療保険料の負担は低い。社会保険料を含めた企業の負担のあり方を議論すべき。

## 9 消費税の現状と課題

▼平成21年度・10・1兆円。

▼国が使えるのは5.9兆円（他は地方）。使途を①基礎年金、②老人医療、③介護の高齢者三経費に限定しているが、区分経理ではなく、他の財源を押し出ししているにすぎない。

▼消費税は逆進的税だが、社会保障目的ならば再分配機能により逆進性は薄まる。

▼社会保障の充実に必要な財源を確保するため、とりわけ消費税率の論議を避けて通れない。

## 10 消費税の検討

(1)まず、負担方法を税か保険料かなどを考えるべき。

▼そのうえで、仮に消費税率引上げを検討するとしたら

①使途を社会保障限定とすること。  
②社会保障の望ましい水準を明示し、負担水準を説明すること。

③歳出を精査し徹底的に無駄を省くこと。

④再分配機能を強化するため、所得税・法人税を引き上げること。

⑤益税などの現行制度の矛盾を解消すること。

⑥税率を引上げる場合は、総選挙で国民の審判を受けること。

▼政権交代の意義は、市民の声を反映できることにある。そのためには意見を示す義務もある。

## 「笑ってもっと元気に」 ●笑いに ●免疫力を高める ●健康で長 ●生きる秘訣はよく笑うこと



### ■赤ちゃんはなぜ笑うか

(1)人間の赤ちゃんはよく笑い、笑顔が可愛い。全面的な保護を必要とする人間の赤ちゃんは可愛いから保護を受けられる。

(2)動物は笑わない。

### ■笑いには医学的効果が

(1)緊張すると、副腎からアドレナリン等を分泌する。ストレスも緊張の一種でアドレナリンはストレスホルモン。ストレスホルモンは免疫力を抑制するので、免疫力が低下する。

(2)笑うと、脳内からエンドルフィンを分泌する。エンドルフィンはナチュラルキラー（NK）細胞を活性化させ、免疫力が向上する。NK細胞はがん細胞を攻撃し破壊するので、がんになりにくくなる。

(3)笑うと、神経伝達物質のドーパミン、セロトニンも分泌する。

うつ病の原因はセロトニン不足。セロトニンは、①太陽光をあびる、②たんぱく質を摂取する、③よく笑うことで増える。

いつも「楽しい」と考えていると、脳の「楽しい回路」が興奮し、

不安の神経回路に血液が流れないので、よく笑えば、うつ病になりにくい

(4)最近、笑いによる治療力向上を活用した医療が盛んになった。

### ■カール・ルイスは笑って加速

(1)カール・ルイスは80mあたりで笑い、加速した。インタビューで「笑うと体が軽くなり加速できる」と答えている。

(2)ウサイン・ボルトもよく笑う。

Qちゃんもいつもここに。笑顔のいい選手はいい成績を残している。

### ■笑って長生きを

(1)健康で長生きをする秘訣はよく笑うこと。

(2)人間には「ミラー細胞」があり、相手の表情に共感するので、笑うと人間関係もよくなる。

(3)ユーモア人間になろう。

そのためには、①まず、挨拶すること、②相手の美点をさがしてほめること、③駄じやれをいうこと、日常生活の中で、楽しいことを見つけ、笑いのネタをさがして、笑顔をつくり、明るく元気に。さあ、みなさんも。

# 年金課税問題の前進へ向けて 退職者連合が民主党に要請

平成16年の税制改定により、

①公的年金等控除の65歳以上の上乘せ措置廃止、②老年者控除廃止等が行われ、年金に対する課税が強化されました。

退職者連合は、この年金課税強化の改善を求め続けてきました。

年金課税の強化は、所得税額に連動する公租公課にもはねかえるため、高齢者の生活はますます苦しくなりました。高齢者の怒りを共有する形で、昨年、民主党は①公的年金控除の最低補償額を140万円に戻す、②老年者控除を50万円に復活すること公約に掲げて選挙に臨み、政権交代を実現しました。

しかし、残念ながら、政権交代後も、老年者控除の復活等は盛り込まれていません。

民主党マニフエストの税制に対する考え方は、所得控除から税額控除へ転換し、あわせて低所得者へ給付する「給付付き税額控除」を導入する

というものでした。

民主党は、今年7月の参院選向けマニフエストの検討に入っており、近々骨格をまとめるとしてはいますが、老年者控除の復活が見送られる危険性もあります。高齢者の期待が総選挙で発揮されて政権交代を実現したわけですから、約束をたがえることは許されません。

退職者連合は、4月13日に民主党のマニフエスト作成の年金・税制部門を担当する「国民生活研究会」会長の中野寛成衆議院議員などに要望を伝え、意見交換しました。この席で民主党側から、①約束は大切にす、②国の財政事情・負担の仕組み・税の再分配機能を総合的に検討していくことが表明されました。

年金課税制度の改善は、当面する重点課題です。政府・民主党に約束を守らせ、改善の実現に向けて努力していくことが必要です。

## 退職者会 活動日誌

▼4月2日、幹事会終了後会計監査。戸張監査、岩淵監査が参加。

▼4月5日、退職者会規約改正案と本部機関紙発送費用の取扱について、本部と意見調整。

庄司事務局長、小林事務局次長、戸枝会計が参加しました。

▼4月23日、定期総会開催前に第10回三役会と第7回幹事会を開催。規約改正案を一部修正して総会議案とすることを確認しました。

▼同日、第3回定期総会。参加者は31名。▼総会終了後懇親会。

▼懇親会終了後第1回幹事会。メーデー参加態勢、上部団体学習会や各単会総会参加者を決めました。

▼5月12日、自治退都本部幹事会が自治労働本部で開催され、渡辺会長（幹事）が参加。自治退都本部の当面の取組み等を確認しました。

▼5月20日・21日、熱海の「ホテル大野屋」で開催された自治退都東甲・北信・東海地域学習会に、戸枝会計と岩淵会計監査が参加。内容は本紙報告のとおりです。

▼4月29日の中央メーデーに4名参加。5月1日の日比谷メーデーは18名

参加。内容は既報のとおりです。

▼5月17日、都庁退親睦交流集会。筑波山つつじ見学・やさしく古民家めぐり・いちご狩りなど。戸張さん、小泉英さん、小泉興さんが参加。温泉もあつて楽しめたようです。

▼4月27日、小石川後楽園涵徳亭で建設局退職者会第31回総会・結成30周年記念祝賀会。庄司事務局長が参加しました。

▼5月7日、都庁職会議室で主税局退職者会定期総会。総会後懇親会。庄司事務局長が参加しました。

▼5月14日、小石川後楽園涵徳亭で福祉保健局退職者会第38回定期総会。川端自治退事務局長の講演もあり、充実した内容。総会後懇親会。渡辺会長が参加しました。

▼5月20日、都庁職会議室で都市整備環境退職者会第27回定期総会。総会後懇親会。戸張副会長が参加しました。

※都庁各単会の総会で、共通して会員拡大を課題にしています。悩みはどこも同じ。

▼5月24日、第1回三役会と第2回幹事会開催。幹事8名参加。

▼4月2日の幹事会以降、事務局会議・事務業務は、4月・5回、5月3回でした。総会準備もあり、開催回数が多くなりました。